

## 新たな10年

去年は「令和」という新たな時代が始まり、今年は西暦「2020年代」という新たな10年・decadeが始まりました。

「1980年代」とか「1990年代」というように、「何十年代」という言い方で、10年を区切りとした時代の特徴を表現することがあります。私は1960年生まれですので、1970年代は10歳台、1980年代が20歳台というふうに、この「何十年代」という言い方が、特に身近に感じるのかもしれませんが。そして、それぞれの時代ごとの社会の様子と、そのときの自分の社会との関わり方がリンクして記憶されています。例えば、1980年代というのは、世界では米ソ2大国が、新冷戦と言われた激しい対立から核軍縮へ、やがて冷戦の終結という劇的な変動を遂げた10年でした。その10年間、私は20歳台で、大学生から教員となり、卒業担任を経験し2校目の学校へ転勤しました。先輩の先生を見ながら教員としての基礎を学んだ時期でした。1980年代という時代と、教員としての自分の歩みがオーバーラップしてきます。

皆さんにとって2020年代というのは、10歳台の後半から20歳台の後半までの10年間です。この10年間は、皆さんが社会を支える重要な構成員となっていく10年間です。

もちろん、皆さんは生まれたときから社会の一員です。3年生の3/4の人はすでに選挙権を持っていますし、再来年の4月までには、皆さん全員が法律上の成人となります。一方で、社会に出て自分が働いて得た収入から納税者となるのはこれからです。

そのような大人になったときには、自分は何をすることで社会の役に立つか、自分の持っている何で社会に貢献するか、答えはこれからの人生の歩みの中で見つかっていくものですが、1年の初めに、考えを巡らせてみてほしいと思います。

「2020年代はこういう時代であった。」という回顧とともに、「自分と社会との関わり方の基礎が形成されたのは2020年代だった。」と、数十年後の皆さんは振り返ることになると思います。

(令和2年1月 3学期始業式の式辞から)